

5月~9月 てるてるきたく

解体前の廃校を色鮮やかにライトアップ

2018年3月に閉校となり、100年以上の歴史に幕を閉じた旧兵庫商業高校。長い年月の間、鈴蘭台の象徴的な建物だった校舎は解体されることになりました。「解体前になんとか今の“まちの風景”を地域の皆さまの記憶に残したい」という想いから、北区制50周年記念事業を周知する舞台としてこの校舎を活用する「てるてるきたく」を企画しました。「てるてるきたく」は、美術家の伊達伸明さんのアドバイスのもと、校舎の窓にスタンドグラス風の装飾を行い、19時から23時までの夜間、校舎内側からライトで照らす企画です。5月20日から9月中旬までの約4か月間、“これまで”の思い出を残しつつ、“これから”の北区の未来を照らしてくれたのではないのでしょうか。



美術家 伊達 伸明さん
1964年生まれ。「建築物ウクレレ化保存計画」、「まちの波板の撮影・収集」など、解体される建物、地域の街並み、暮らす人々の思い出をつなぎ合わせる独創的な活動を実践。



① 文字のカット

カラーセロハンを活用して、「北区制50周年」の文字やすずらんの花などをかたどりました。近くで見るとかなりのサイズ感でした…!

② 貼り付け

伊達さん、職員で協力して窓ガラスへの貼り付けを行いました。完成形を想像しながらの楽しい時間でした。



③ 点灯

最初の点灯の際は集まった方々から歓声があがるほどの素敵な仕上がりとなりました!



8/24 (木) 北区の歴史を振り返る会



かつての北区に想いを馳せる歴史のロマン。

地域の皆さまが北区の歴史を振り返ることで、北区の魅力を再認識してもらえるよう、神戸新聞社の大国正美さんを講師に講演会「北区の歴史を振り返る会」を開催しました。

テーマは『古絵図による北区の街道と町の発展』。他区と比べても圧倒的な数を誇り、「宝庫」とも呼べる北区の文化財、北区の大動脈とも言える有馬街道などの道、豊富な資料と大国さんの巧みな話術で、参加された皆さまは聞き入っていました。特に、淡河町から、八多町の屏風・附物・吉尾、有野町の二郎を通して西宮へ抜ける「湯の山街道」は、中世以来、京都から西国に向かう主要道として栄えていたことが国絵図からも読み取ることができ、大きな驚きとともに、北区の歴史に夢とロマンを感じる貴重な時間でした。



神戸新聞社 常務取締役 大国 正美さん
1958年福井市生まれ。神戸新聞社取締役の傍ら、ボランティアで神戸市東灘区にある神戸深江生活文化史料館館長を務め、神戸史学会の雑誌『歴史と神戸』編集を担当。

9/23 (土) 北区出身作家

岸田奈美さんによるトークイベント



9月23日(土)北区ご出身の作家 岸田奈美さんによるトークイベントとサイン会を開催しました! 北区と同じく、50周年を迎える北区社会福祉協議会と、5周年を迎えるベルスト鈴蘭台・北区役所管理組合と、北区地域協働課の三者による共催です。

幼少期から高校時代までを北区で過ごされ、鈴蘭台の高校に通っていた岸田さんは、学生時代からすっかり変わった鈴蘭台の駅前や街並みにとても驚かれていました。

トークイベントではご自身のこれまでの経験にちなんで、鈴蘭台でのこと、ご家族のことなど、明るくお話しされ、会場の皆さまは真剣に、ときに笑いながら、岸田さんのお話に聞き入っていました。その後のサイン会も大行列。一人ひとりと丁寧に向き合い話されながら、イラストを添えたサインをして下さいました。そして、北区役所へは「50周年おめでとう」の文字入りの素敵なサインをプレゼントしていただきました!



北区役所もサインをもらいました!



満員御礼 大盛況!!



作家 岸田 奈美さん
神戸市北区出身の作家で「家族だから愛したんじゃなくて、愛したのが家族だった」の著者。幼少期から高校時代までを北区で過ごした。